

# ジョージ・リックフォードの物語

1969年、イギリスのレスターに住む若者ジョージ・リックフォードは、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師たちと出会いました。ジョージは最初、宣教師たちのメッセージを受け入れまいとしましたが、結局、宣教師と会うようになりました。3か月間教会について熱心に勉強した後、ある朝目を覚ましたジョージは、教会が真実であると確信します。

ジョージは得たばかりの証を宣教師に伝えたくてたまりませんでした。しかしその前に、アフリカ系黒人の血を受け継いでいるため、教会員として神権を受けられないという知らせを長老たちから受けたため、伝えることができませんでした。

ある日、ジョージは宣教師から教えを受けていたことを親しい友人に話し、預言者ジョセフ・スミスについて教え始めました。そのときのことをこう言っています。「その話をしているうちに、わたしは生き生きとしてきて、何らかの力に満たされて笑みがこぼれてきたのです。」

この経験をしてからジョージの証は再び強くなりましたが、神権の制限に関する悩みは依然としてありました。もっとよく理解できるようにと祈ると、こんな言葉が聞こえました。「あなたは福音に従う決意を固める前に、わたしの福音についてすべてを理解する必要はありません。これまで聞いたことを受け入れて残りはわたしの手に乗ねるといことで、信仰を示してはどうですか。」

この言葉に安堵したジョージは、祈る気持ちで答えました。「はい。主よ、そうします。わたしは信仰をもって福音を受け入れます。ありがとうございます。何はともあれ、感謝します。」2か月後にジョージは、バプテスマを受けて忠実な教会員になりました。

1975年、すなわち神権に関する啓示の3年前、ジョージは神権の制限を「信仰をもって無条件に」受け入れ、神は公正であるという信仰を表明したと記し、次のように付け加えています。「わたしは主の神権とそれに付随するすべての祝福、権能、責任が再び地上にあることに心から感謝しています。だれが神権を持っていて、だれが持っていないかは、わたしにとって問題ではありません。どのように神権が行使されるかの方がはるかに大切なのです。」

1978年、ジョージは、すべてのふさわしい男性に神権が授けられるようになるという啓示について知りました（公式の宣言二参照）。

「ジョージが家に帰ると、彼と〔妻である〕ジューンは一晩中、この知らせが家族にとってどのような意味をもつのかについて一晩中語り合いました。その変更は記念すべき出来事でした。翌朝、ジョージ・リックフォードはアロン神権の祭司に聖任されました。この2か月後、七十人に聖任され、ステーキの七十人定員会の先任会員となりました。さらにこの2か月後、ジョージ・リックフォードとジューン・リックフォードは4人の子供たちとともにイングランド・ロンドン神殿で結び固めを受けました。」（「わたしは信仰をもって福音を受け入れます」）